

マイルス・デイビス 最初の録音と最後の演奏

これが果たして「お役立ち情報」と言えるかどうか我ながらアヤシイ……。しかしマイルスのファンでなくてもジャズファンなら知っていて損はないと思います。

私の場合、マイルスを軸として LP レコードを聴いていますが、この問題は全く意識していませんでした。

たまたま NHK の BS で「マイルス・デイビス 青の時代」(おそらく再放送)を観る機会があり、成程と思った次第です。

まず「最初の録音」ですが：

これはビ・バップのハイ・ノートで速射砲のようなトランペット演奏が出来なかったマイルスが自分の演奏スタイルを編み出してから初めて臨んだという意味での「最初の録音」です。

ただし同番組によると、このスタイルはマイルスの全くのオリジナルというわけではなく、友人のトランペッター、フレディ・ウェブスター (Freddie Webster) のスタイルを真似たものです。35 歳で亡くなったフレディは「間」(スペース)の取り方がうまかったそうです。

さて、その録音ですが、チャーリー・パーカーが SAVOY のために録音したセッションです。

「Charlie Parker's Reboppers」

Miles Davis or Dizzy Gillespie, trumpet; Charlie Parker, alto sax;

Argonne Thornton(Sadik Hakim), piano; Curly Russel, bass;

Max Roach, drums.

Davis does not play on 'KoKo' and 'Meandering'; Gillespie plays trumpet(and is probably also on piano) on 'KoKo'.

Engineer: Doug Hawkins, at WOR Studios; November 26, 1945

曲目ですが、

Warmin' Up a Riff-1 2:34 S5849-1/Sav 945

Billie's Bounce-5 3:07 S5850-5/Sav 573

Now's the Time-4 3:15 S5851-4/Sav 573

Thrivin' from a Riff-3 2:55

以上はたまたま手元にあった

‘CHARLIE PARKER – The Complete Savoy & Dial Master Takes’ (SVY 17149)

という 3 枚組 CD からのデータです。

やっかいなのは「最後の演奏」です。

番組の中でクインシー・トランプが最後の演奏として ‘Live Around The World’ という CD から “HANNIBAL” を紹介しています。

この CD 自体は中古で沢山出回っていますから、簡単に入手可能です。

私が¥705+送料で入手した CD は 1996 年の WB 盤(9362-46032-2)、ただし Made in Germany です。

問題は、この CD の 11 番目で最後の “HANNIBAL” だけ演奏場所、演奏日のクレジットが無いということです。「FROM MILES DAVIS’ LAST PERFORMANCE」という文言とメンバーの記載があるだけです。

仕方がないので、故中山康樹氏の「マイルスを聴け！2001」に頼ることになります。

この本で紹介されている CD はどうやら同じモノのようで、アルバムの紹介欄にはこの 11 曲目のみ、メンバー記載の後「1991 Aug. 25 (The Last Performance)」と記載されています。

さらに本文の方で「ロサンゼルスはハリウッド・ボウルにおける」という記述があります。
(いずれも P.452)

マイルスが亡くなったのは 1991 年 9 月 28 日ですから、番組の中で紹介されていた「このライブの後、マイルスは倒れ、1 ヶ月後に亡くなった」ということと矛盾はしません。

最後になりますが、私が入手した CD の解説には、

「Recorded and mixed live by Patrick Murray except “HANNIBAL” recorded and mixed by Don Kurek」

という記述があつて、理由はわかりませんが、この “HANNIBAL” だけが特別な存在となっています。

以上